

鳥坂寺跡整備検討委員会 会議録

第3回会議（2013年2月19日）

時間...14:00～16:30

場所...歴史資料館3階 研修室

1. 開議

2. 事務局あいさつ

3. 審議

（ ...委員からの意見・質疑、 ...事務局の回答）

ア 整備対象地とゾーニング計画の検討

イ 各遺構の整備手法の検討

ウ 公園関係の諸施設の検討

【事務局から説明】

【整備対象地とゾーニング計画の検討】

語句の問題になるが、『整備基本方針』で「奈良と難波を結ぶ結節点」とあるが、「奈良」を「大和」としたほうが、違和感がない。

同じ『整備基本方針』で「正しく正確に」とあり、意味が重複しているのでは。字句については、再度検討して欲しい。

『歴史的特徴』では、河内六寺以外にも、河内国分寺や片山廃寺、大和川、河内大橋なども盛り込んだ方がよい。

『整備手法の検討』で、「建物跡は、主に石と土で作られており」という表現も違和感がある。

表現、字句などについて、再度検討を行う。

『遺構の特徴と評価』の景観の項目で触れられていないが、鳥坂寺は丘陵上にあった前期古墳を壊して伽藍を造っている点も、他に類例はなく評価される。備考にこの内容を記載したほうがよい。

同じ箇所、金堂の南側で見ついている礼拝石も、山田寺に次ぐ資料といえる。鳥坂寺跡の特徴として、高く評価すべき。

【金堂跡の整備について】

『整備手法の検討』にある、遺構実物展示は、遺構の劣化などが考えられ不可能である。遺構型取りレプリカ展示、遺構復元展示、遺構表示展示を基本とする。

北階段と北面基壇は型取りレプリカ展示、東面・南面基壇は凝灰岩による復元展示という案が示されているが、基壇の景観や両者の接続部分などに違和感がでてくる可能性がある。

異なる展示手法をとることで、動線をどのようにするのが問題になる。

動線としては、基壇の上からではなく、周囲から観察するという見せ方を想定している。

仮に北面階段をレプリカとした場合、階段自体が磨り減っているため、実際の階段とするには危険である。そのため、北階段周囲にフェンスを設けるなどして、登らせないようにする必要がある。南面階段を凝灰岩で復元し、登り降り可能にすると、北階段から降りようとする見学者もでてくる。したがって、原案では金堂の基壇上には登れないよう整備する必要がある。基壇すべてを新たな凝灰岩で復元するならば、基壇上に登ることは可能になる。

礼拝石も見えるような形で表示してほしい。

金堂跡からピスタ（眺望）ラインはどのようなものを想定しているのか。

塔跡のある神社地の樹木を伐開することで、見通しを良くし、金堂跡と塔跡との位置関係を示すことは可能である。また整備後、市民参加での景観の保全活動などができればと考えている。

金堂・講堂跡あたりからは、眺望はきかない。むしろ北側の一段高いパーキングエリアであれば、古市古墳群などが見える。そういう意味では、金堂の基壇上からの眺望をそれほど考える必要がない。

解説広場に地形模型を置けば、伽藍配置や片山廃寺などの位置関係が理解しやすい。金堂跡からは片山廃寺などをみることは難しい。塔跡のある神社地からは、周辺が開けていれば、大和川越しに片山廃寺の位置などを確認できる。

鳥坂寺跡は、塔跡、金堂・講堂跡、僧房・食堂跡と3つのエリアに分かれている。それぞれから相互の位置関係がわかるように表示する必要がある。可能であれば、伐開等でピスタラインも確保できればよい。

金堂の北面をレプリカ展示、東面・南面を復元展示とした理由はなにか。

発掘調査の臨場感を出す意味で、北面はレプリカ展示とした。ただ、それだけでは、基壇の実際の姿をイメージしにくく、復元した方が一般には理解しやすいと考え、展示手法を分けている。

基壇を復元すると、やはり上に登る見学者がいるのではないか。金堂全体をレプリ

力展示し、講堂を復元展示するというやり方もある。

北面で、基壇が立っている様子と説明板などがあれば、おおよその基壇の姿は理解できるのではないか。南面の基壇は倒れた状態だが、金堂の持つ迫力をそのまま表現してはどうか。

金堂はレプリカ、講堂は復元という、建物によって手法を変えたほうが分かりやすいが、財政面やメンテナンスの問題がある。

レプリカに使用する素材に関しては、改良され耐久性は高くなっている。ただ、着色した場合、紫外線などの影響により5年ほどで退色する。再度彩色する場合も、専門業者が必要になる。

過度な整備で、疑問符が付く復元例もある。鳥坂寺の金堂の場合、基壇はかなり正確に復元できるが、やはり作り物の印象は拭えない。

遺跡の面白さ、迫力といった意味では、レプリカ展示の方が印象に強く残る。

メンテナンス面から考えると、奈良県の黒塚古墳のように、レプリカを屋内に展示するという方法もある。ただし専用の施設が必要になる。

金堂基壇の上面はどのような手法での整備を考えているのか。

擬土により発掘状況での復元を考えている。

礎石位置については、ある程度復元してはどうか。

礎石は落とし込まれており、原位置を留めているものはない。階段幅、束石等から推定は可能である。

講堂では礎石をきっちり復元しているのに対し、金堂では礎石の位置を表示しないとなると、金堂に柱が無かった印象を与えるのでは。

基壇上面については、落とし込まれた礎石も含めて、発掘状況をそのまま復元し、想定される柱位置を線などで表示するという方法もある。

委員会としては、原案に加え、基壇上面、礼拝石を含めて金堂全体を発掘状況でのレプリカ展示することを提案する。

【講堂跡の整備について】

須弥壇は西側が拡張されているが、当初の須弥壇での復元を考えているのか。

当初の須弥壇で考えている。拡張された範囲は、別の形で表示する。

基壇上面へ登る際、階段が必要になるが、動線をどのようにするのか。

講堂基壇へは、回廊との接続部分から入り、講堂の南面には、金堂に向かうための仮設的な階段の設置を考えている。

北面では、扉金具などが見つかっているが、その表示はどうするのか。

出土地点には写真入りの説明板などの設置を考えている。

【回廊・中門跡の整備について】

回廊の基壇は、調査でははっきりわかっていないが、基壇がないのは不自然である。

講堂に準じた形で、自然石を使用した基壇を復元してもいいのでは。

北面東側の回廊は、コーナー部分に当たるので、一状に南に延びる形で復元するのが問題になる。また屋根の形をどうするのか検討しなければならない。回廊のコーナー部分のみを復元している例として、栃木県の下野薬師寺跡がある。

東面・南面回廊の柱位置は確認できているのか。

発掘調査では確認できていない。

回廊の上屋を復元した際に、どのような意図を伝えるのが問題になる。屋根があれば、雨よけなどの一時休憩施設として利用できるが、この地点だけ構築物があると違和感があるのではないか。

回廊では、調査で礎石が見つかった場所は上屋構造を復元し、未確認の東面・南面の柱の位置については、柱あるいは礎石のみでの表示を案として示した。講堂へのゲート的な意味合いや、目立たせて、まずここに足を運ばせるという意図もある。

最も遺存状態の良い金堂はレプリカ展示、次に状態の良い講堂は平面的な復元展示、あまり状態の良くなかった回廊は一部立体復元展示と、鳥坂寺跡では実際の遺存状態とは逆に展示するという整備手法もある。

北側の解説広場の展示案内などに、瓦葺屋根の建物をつくるというのはいいかもしいないが、遺構のあるエリアで、金堂や講堂にはない上屋が、なぜ回廊の隅にだけあるのかということで違和感を覚えてしまう。

北面回廊で上屋の復元をする際、どこまで上屋を復元するのかという問題がある。また、そういった復元を別の場所で行うという案が挙げられていることも基本計画には併記してほしい。

【塔跡の整備について】

塔心礎についてはどのような方法で表示を考えているのか。

写真を使用した陶板などでの表示を考えている。現在でも、神社の祭事で利用されるエリアなため、心礎周囲も舗装により、極力フラットな表示を行う。

塔跡の再調査で、祭事に伴う焚き火等により、雨落溝が破壊されていたことが確認されている。雨落溝よりも広めに舗装整備し、穴を掘るなど手が加えられないようにする必要がある。

盛土はできないのか。

現在の建物とのバランスを考えると、40～50cm 盛土するのは難しい。神社との違和感のない形で、範囲を明示していきたい。将来的に拝殿などの建替えの際、可能であれば盛土をしてもらうということも考えている。

【僧房・食堂跡の整備について】

「鳥坂寺」銘墨書土器の出土地点は道路になると思うが、この表示は陶板などによるものか。

陶板を想定しているが、道路上で磨耗することが考えられるため、素材は検討する。

僧房・食堂跡は、現状では遺構面からどのくらい盛土がされているのか。

50cm から 1 m ほど盛土されている。

僧房跡の南側の一部を遊具として利用するとあるが、具体的にはなにか。

柱の位置に沿った滑り台などを考えている。

遊具などは、遺構と重複しないほうが良いのではないか。

現在、こども達がよく利用している複合遊具があり、これは一部僧房跡に重なっている。公園敷地内で遺構が占める面積の割合が高いため、遺構と重ならない場所に移設するのは難しい。史跡整備のために、遊具を完全に撤去するというのは、地元の理解が得られにくいため、遺構と絡めた形で遊び場を提供することを想定した。また食堂跡には藤棚がある。このような現況を踏まえて、遺構を立体表示するとともに、遊具・休憩施設などを提供したいという意図がある。

遺跡を破壊しないという前提であれば、遊具があってもよい。利用している地域住民の理解を得る方向で考える必要がある。

現状での利用のあり方を尊重するが、僧房跡の南側に遊具を設置してしまうと、僧房がそこで終わっているような印象を与えてしまう。あえて遊具として利用せず、舗装などしてきちんと僧房跡の範囲を示すべき。

食堂跡について、遺構のままのサイズでパーゴラ（植物棚）を設置するとかなり大きくなり、逆に遊ぶスペースが狭くなってしまう。遺構の平面表示をする程度に留め、現状の利用を損なわないように配慮するというのはどうか。

パーゴラ等が必要であれば、遺構上ではなく敷地内の北側など別の場所の方がよい。

【公園関係の諸施設について】

園路の舗装は具体的にどのようなものを想定しているのか。

土系の舗装で、車椅子での通行が可能なものを考えている。ただ、車椅子による通行は北側からは可能であるが、南側からは傾斜があるため自力での通行は困難である。車椅子でもなるべく伽藍などの遺構に接近できるように配慮したい。

園路には水が溜まらないようにはするのか。

透水性のあるものを使用する。

駐車場に関連して、大型バスは駐車可能か。

鳥坂寺跡周辺の高井田地区では、交通規制があり、大型バスの通行は不可能である。

主に普通乗用車、マイクロバスでの利用となる。

【線路との境界処理について】

転落防止柵の素材は何か。

アルミによるデザイン柵で、色調はブロンズ色を想定している。

転落防止柵は、安全上非常に重要である。高さとして 110cm では低いのではないか。

規定で 110cm となっているが、危険性を考えるとより高くすべきかもしれない。ただあまり高くしてしまうと、視線、景観等の妨げとなるため、より検討すべきと考えている。低い場合でも、手前に生垣等を植栽し、景観も配慮しつつ、安全を図るという方法もある。

小学生の遠足などの利用が考えられるため、十分配慮してほしい。

かなり幅を広くとって、簡単には乗り越えられないようにし、さらにその先に金属製の柵を設置するなどする必要がある。

安全性を第一に優先し、形状に関しては実施計画の課題とする。

【その他】

動線によって、園路の舗装の色を変えることは考えているのか。

今のところは考えていない。ただ、鳥坂寺跡は3つのエリアに分かれているため、塔跡あるいは僧房・食堂跡へのルートはわかりやすく明示する。

図面上に園路が図示されていないが具体的にはどのようなようになるのか。

現在、平面図に入れたものを作成中である。北から南に向けて傾斜する地形であるため、歩行者、車椅子などに配慮した園路とする。

南展望広場から、僧房・食堂跡へは直接、行き来はできないのか。

住宅地であり、通行はできない。

管理用道路は想定しているのか。

南側の入り口から、軽自動車などではアクセス可能となるよう検討している。また講堂の東側にも管理用道路が敷設可能だと考えている。

整備後、夜間も出入りは可能なのか。

今のところ、24時間開放する方針である。

4. 基本計画書の作成と次年度の予定

事務局：平成 25 年度は、3～4 回の委員会の開催を予定している。基本計画については、今回までにご提言いただいたものをまとめて、平成 24 年度内に作成し、市長に提言する。市長への提言については、5～7 月頃を予定している。

5. 閉議